

Kofax RPA

Desktop Automation サービス設定ガイド

バージョン: 11.0.0

日付: 2019-12-17

The logo for KOFAX, consisting of the word "KOFAX" in a bold, blue, sans-serif font.

© 2017–2020 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

はじめに.....	4
関連ドキュメント.....	4
トレーニング.....	5
Kofax 製品のヘルプの入手.....	5
第 1 章: Desktop Automation サービスの設定.....	7
Desktop Automation の前提条件.....	7
Desktop Automation サービスの設定.....	7
Desktop Automation サービスのログイン.....	14
Desktop Automation でのプロキシ サーバーの設定.....	15
Java Access Bridge の確認.....	15
デフォルトの OCR 言語の変更.....	16
仮想入カドライバをアクティブにする.....	17
リモート デスクトップの管理.....	17
Desktop Automation サービスの管理.....	17

はじめに

このガイドでは、リモート コンピュータで Desktop Automation を使用するために必要な Desktop Automation サービスを設定する方法について説明します。

関連ドキュメント

Kofax RPA のドキュメント セットには次の場所からアクセスできます。¹

https://docshield.kofax.com/Portal/Products/RPA/11.0.0_qrvv5i5e1a/RPA.htm

このガイドの他に、ドキュメント セットには次の項目が含まれています。

Kofax RPA Release Notes (Kofax RPA リリース ノート)

その他の Kofax RPA ドキュメントからは入手できない最新の詳細やその他の情報が含まれています。

Kofax RPA Installation Guide (Kofax RPA インストール ガイド)

Kofax RPA およびそのコンポーネントを開発環境にインストールする方法について説明します。

Kofax RPA Administrator's Guide (Kofax RPA 管理者ガイド)

Kofax RPA での管理タスクについて説明します。

Kofax RPA ヘルプ

Kofax RPA の使用方法について説明しています。ヘルプは、『Kofax RPA ユーザー ガイド』という PDF 形式のドキュメントとしても提供されています。

Kofax RPA Desktop Automation スタート ガイド

Kofax RPA Desktop Automation を使用してロボットを構築するプロセスを実行するためのチュートリアルを提供します。

Kofax RPA Document Transformation スタート ガイド

OCR、抽出、フィールドの書式設定、検証などを含む Kofax RPA環境の Document Transformation 機能を使用する方法について説明します。

Kofax RPA Developer's Guide (Kofax RPA 開発者ガイド)

RoboServer 上でロボットを実行するために使用される API に関する情報が含まれています。

¹ オンラインのドキュメント セットにアクセスするにはインターネットに接続する必要があります。インターネットに接続せずにアクセスする方法については、『Installation Guide』(インストール ガイド)を参照してください。

Kofax RPA Application Programming Interface (Kofax RPA アプリケーション プログラミング インターフェース) 文書

Kofax RPA へのプログラムでのアクセスを提供する Kofax RPA Java API および Kofax RPA .NET API についての情報が含まれています。Java API 文書は、オンラインおよびオフラインの Kofax RPA 文書から入手できますが、.NET API 文書はオフラインのみとなります。

注 Kofax RPA API は、元の製品名である「RoboSuite」に対する詳細な参照を含んでいません。RoboSuite の名前は後方互換性を確保するために残されています。API 文書の中では、RoboSuite という用語は Kofax RPA と同じ意味で使われています。

トレーニング

Kofax は、Kofax RPA ソリューションを最大限に活用するために、教室でのトレーニングとコンピュータでのトレーニングの両方を提供しています。利用可能なトレーニング オプションとスケジュールの詳細については、www.kofax.com の Kofax Web サイトをご覧ください。

Kofax 製品のヘルプの入手

[Kofax Knowledge Base](#) (Kofax ナレッジ ベース) リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Base (ナレッジ ベース) で情報を検索することをお勧めします。

Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース) を参照するには、[Kofax Web サイト](#) にアクセスして、ホームページでサポートを選択してください。

注 Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース) は Google Chrome、Mozilla Firefox または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース) では以下の内容を提供します:

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。
Search (検索) ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。
Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース) のホームページをスクロールして、製品ファミリーを見つけます。目的の製品ファミリー名をクリックして、関連記事の一覧を表示します。一部の製品ファミリーの場合は、関連記事を表示するために Kofax Portal (Kofax ポータル) の有効なログイン情報を入力する必要があります。
- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (資格のあるカスタマー向け)
ページ上部にある **Customer Support** (カスタマー サポート) リンクをクリックしてから、**Log in to the Customer Portal** (カスタマー ポータルにログイン) をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (資格のあるカスタマー向け)
ページ上部にある **Partner Support** (パートナー サポート) リンクをクリックしてから、**Log in to the Partner Portal** (パートナー ポータルにログイン) をクリックします。

- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。
General Support (一般サポート) セクションまでスクロールして、**Support Details** (サポートの詳細) をクリックし適切なタブを選択します。

第 1 章

Desktop Automation サービスの設定

Desktop Automation の前提条件






Desktop Automation の要件および前提条件については、すべて『Kofax RPA インストール ガイド』の「Dependencies and Prerequisites」(依存関係と要件)の章に記載されています。

注 Desktop Automation サービスは Windows UI オートメーション API に依存しています。UI オートメーション API クライアントは同じコンピュータ上で Desktop Automation Agent と同時に実行しないでください。

Desktop Automation サービスの設定

コンピュータが Desktop Automation に必要な要件をすべて満たすと、Desktop Automation エージェントをインストールおよび構成することができます。

1. Java アプリケーションを自動化する必要がある場合、Java 32 ビット (JRE または JDK) をリモート デバイ스에インストールし、Java Access Bridge がデバイスで有効になっていることを確認します。詳細については、[Java Access Bridge の確認](#) を参照してください。
2. Kofax RPA Desktop Automation インストーラをデバイスにダウンロードし、実行します。
3. Desktop Automation サービスをスタート メニューから開始します。サービスが開始すると、そのステータスを通知領域のアイコンで確認できます。

アイコン	ステータス
	Desktop Automation サービスが開始し、設定されている Management Console に接続しようとしています。
	Desktop Automation サービスが実行中で、設定に応じて Management Console に接続されているか、またはシングル ユーザー モードで実行中です。
	Desktop Automation サービスが実行中で、RoboServer または Design Studio によって使用中です。
	Desktop Automation サービスは実行していません。
	Desktop Automation サービスはエラーのため実行していません。

4. Desktop Automation サービス パラメータを編集するには、通知領域の Desktop Automation サービス アイコンを右クリックし、[設定] を選択します。これにより、Desktop Automation サービス ウィンドウが開きます。オプションを変更したら、[保存して再起動] をクリックします。

オプションを手動で編集するには、オートメーション デバイスの `server.conf` ファイルを開きます。ファイルは [ユーザー] > [ユーザー名] > [AppData] > [ローカル] > [Kofax RPA 11.0.0] フォルダにあります。ユーザー名はサービスが実行されているユーザーの名前です。

以下の Desktop Automation サービス オプションの表を参照してください。

5. [管理] > [デバイス] タブでデバイスが Management Console に登録されていることを確認します。

以下は、Desktop Automation サービス構成ウィンドウです。

ホスト名	<input type="text" value="localhost"/>
コマンド ポート	<input type="text" value="49998"/>
ストリーム ポート	<input type="text" value="49999"/>
CA ファイル	<input type="text"/>
タイムアウト	<input type="text" value="60"/>
<input type="checkbox"/> シングルユーザー	
<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"> Management Console シングルユーザー 証明書 Windows OCR システム </div>	
MC パス	<input type="text" value="http://192.168.0.1:50080/"/>
ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>
クラスタ	<input type="text" value="Production"/>
ラベル	<input type="text" value="WindowsLocal"/>
ping 間隔 (ms)	<input type="text" value="5000"/>
<input type="checkbox"/> プロキシを使用して Management Console に接続	
プロキシ ホスト名	<input type="text"/>
プロキシ ホストポート	<input type="text" value="0"/>
プロキシ ユーザー名	<input type="text"/>
プロキシ パスワード	<input type="text"/>
<input type="button" value="ヘルプ"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="保存して再起動"/>	

次の表に、利用可能な Desktop Automation エージェント オプションを一覧表示します。

設定ウィンドウ オプション	server.conf オプション	値と説明
[シングル ユーザー] クリア (デフォルト) Design Studio からオートメーション デバイスへの直接接続、または RDP 接続の使用時に選択します。	"singleUser"	false (デフォルト) true false に設定すると、Desktop Automation エージェントが指定された Management Console に自動的に登録されます。 オートメーション デバイスへの直接接続の場合、true に設定し、トークンを指定します。*
[ホスト名]	"hostName"	Desktop Automation エージェントを実行しているコンピュータの名前または IP アドレス。 コンピュータに複数の名前または IP アドレスがある場合、RoboServer と Design Studio がこの Desktop Automation エージェントと通信するものを指定します。つまり、ホスト名または IP アドレスは RoboServer と Design Studio から接続可能である必要があります。
[コマンド ポート]	"commandPort"	49998 (デフォルト) 必要に応じて、このポートをオートメーション デバイ스에再割り当てします。
[ストリーム ポート]	"streamPort"	49999 (デフォルト) このポートは、Design Studio と Desktop Automation エージェント間のデータ送信に使用されます。streamPort が "0" に設定されると、Desktop Automation エージェントではランダムにポート番号が選択されます。 Design Studio とオートメーション デバイスの間にファイアウォールがある場合、streamPort を割り当てる必要があることがあります。

設定ウィンドウ オプション	server.conf オプション	値と説明
[CA ファイル]	"caFile"	<p>空 (デフォルト)</p> <p>SSL を使用して Management Console と通信できます。node.js のデフォルトの証明書が使用されない場合、このパラメータを使用して別の証明書へのパスを指定できます。これを動作させるにはルート証明書が必要であります。Google Chrome ブラウザからルート証明書をファイルに保存するには、次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アドレス バーのロック アイコンを右クリックし、[証明書 (有効)] をクリックします。 2. [証明のパス] タブで、一番上の (ルート) 証明書を選択し、[証明書の表示] をクリックします。 3. [詳細] タブで [ファイルにコピー] をクリックし、ウィザードを完了してルート証明書を base-64 エンコード X.509 証明書としてエクスポートします。 <p>これで、エクスポートされた証明書を含むファイルへのパスを指定できるようになります。</p>
[タイムアウト]	"commandTimeout"	<p>このオプションでは、コマンド実行のタイムアウトを秒単位で指定します。コマンドはオートメーション デバイスに送信される命令です。マウス ボタンのクリック、アプリケーションを開く、location found ガードを追加する場合などです。コマンドが指定した時間内に完了できない場合、サービスによって通知が送信され、ロボットの実行が停止します。</p> <p>Location Found (ロケーションが見つかった場合) ガードの場合、この設定はワークフローでのガードの呼び出しに適用されますが、ガードが満たされるまでの待機はこのタイムアウトとは無関係のため、無制限に待機し続ける可能性があります。マウス移動ステップと抽出ステップの使用時に、同様の状況が発生します。コマンドはフィールドで指定されたタイムアウト以内にデバイスで呼び出される必要がありますが、ロボットはコマンドの完了を最大 240 秒間待機します。</p> <p>Desktop Automation ワークフローでの端末の自動化、または Web サイトのブラウズに対するコマンド タイムアウトは、Design Studio でのワークフロー実行の場合は [Design Studio 設定] ウィンドウの [Desktop Automation] タブ、RoboServer 実行の場合は [RoboServer 設定] ウィンドウの [セキュリティ] タブの Desktop Automation セクションで設定します。</p>

設定ウィンドウ オプション	server.conf オプション	値と説明
[シングル ユーザー] タブの [トークン]	"token"	空 (デフォルト) 「singleUser」 オプションが false に設定されている場合、このオプションは空のままにします。オートメーション デバイス ("singleUser": true) への直接接続を使用する場合、トークンを指定します。定義されたトークンでもかまいません。

設定ウィンドウ オプション	server.conf オプション	値と説明
<p>[証明書] タブ</p> <p>リモートハブ</p> <p>秘密鍵ファイル <input type="text" value="kapow.remote.das.pem"/></p> <p>公開鍵ファイル <input type="text" value="kapow.remote.das.cert.pem"/></p> <p>独自の CA ファイルがあるフォルダ <input type="text" value="/serverCa"/></p> <p>ローカルハブ</p> <p>秘密鍵ファイル <input type="text" value="kapow.local.das.pem"/></p> <p>公開鍵ファイル <input type="text" value="kapow.local.das.cert.pem"/></p>	"tlsServerConfig"	<p>Kofax RPA では、オートメーション デバイスと RoboServer、または Design Studio との間の TLS 通信を提供しています。通信には、通信を暗号化するための証明書が使用されます。以下は、server.conf ファイル コードの抽出です。詳細については、Kofax RPA ヘルプの「TLS コミュニケーションを使用」を参照してください。</p> <pre> "tlsServerConfig": { "key": "kapow.remote.das.pem", "cert": "kapow.remote.das.cert.pem", "ca": "./serverCa" }, </pre>
<p>[Windows] タブ</p>	"automationnative"	<ul style="list-style-type: none"> • "useLegacy" <p>状況によっては、Java Access Bridge が動作しないため、レガシー モードに切り替えることをお勧めします。デフォルトは false です。</p> • インストール済みパッケージ <p>このコンピュータにインストールされている Desktop Automation サービスパッケージを表示します。バージョン 10.7 から、以下の [パッケージをロック] オプションが選択されていない場合は、新しいバージョン パッケージが自動的にインストールされます。ZIP ファイルのパッケージは、自動化されたコンピュータの C:\ProgramData\Kofax RPA にインストールされます。RoboServer のバージョンに応じて、適切なパッケージが自動的に選択されます。使用するバージョン パッケージを 1 つだけ指定する場合は、[パッケージをロック] を選択し、インストールされているパッケージの 1 つを選択します。</p> • パッケージをロック <p>選択すると、作業する唯一のバージョン パッケージを選択できます。異なるバージョンの RoboServer は、このサービスに接続できません。デフォルト: オプションはクリアまたは server.conf ファイルで false です。</p> <p>トリガーを使用してロボットを実行する場合、このオプションを選択するか、server.conf ファイルで設定を true に変更します。</p> • RFS 共有をドライブ文字にマッピング <p>ロボット ファイル システムのファイル共有が使用している Windows ドライブ。ファイル共有が Windows ドライブにマップされると、他の Windows アプリケーションもこのファイル共有にアクセスできます。</p>

設定ウィンドウ オプション	server.conf オプション	値と説明
[OCR]	"ocrConfig"	"defaultLanguage": "eng" OCR 操作を実行する言語を指定します。デフォルトで、Kofax RPA では英語がインストールされます。言語のインストール手順については、以下の デフォルトの OCR 言語の変更 を参照してください。
<p>[システム] タブ</p> <p>このタブを使用して、ログ ファイルを開いてエラーの有無を調べたり、サービス ファイルのバージョンと場所を表示したりできます。</p> <p>このタブを使用して、サービスが実行されているコンピュータに Java Access Bridge が適切にインストールされているかどうかを確認できます。詳細については、Java Access Bridge の確認 を参照してください。</p>		
Management Console オプション		
<p>[MC パス]</p> <p>接続プロトコル、名前または IP アドレス、ポート番号、およびデバイスパスを登録する必要がある Management Console。形式は次のとおりです。 http://10.10.0.136:50080.</p>	"hostName"	デバイスを登録する必要がある Management Console の名前または IP アドレス。
	"port"	指定した Management Console の接続ポート。
	"schema"	指定した Management Console の接続プロトコル。
	"path"	空 (デフォルト) ポート番号の後のスタンドアロン Management Console へのパスの部分。 たとえば、Management Console が Tomcat (http://computer.domain.com:8080/ManagementConsole/) で展開されている場合、このパラメータで "/ManagementConsole/" を指定します。埋め込み Management Console インストールの場合、このパラメータを空のままにします。
[ユーザー名]	"user"	空 (デフォルト) 指定された Management Console で認証するためのユーザー名。
[パスワード]	"password"	空 (デフォルト) 指定された Management Console で認証するためのパスワード。
[クラスタ]	"cluster"	プロダクション (デフォルト) 指定した Management Console のクラスタ名。
[ラベル]	"labels"	"label1,label2" (デフォルト) オートメーション デバイスを区別するためのラベル。
[ping 間隔 (ms)]	"pingInterval"	5000 (デフォルト) Desktop Automation サービスが Management Console に ping 送信する時間間隔。

設定ウィンドウ オプション	server.conf オプション	値と説明
[プロキシを使用して Management Console に接続]	"useProxy"	<p>このオプションを Desktop Automation サービスに選択し、Management Console への接続時にプロキシを使用します。必要なパラメータはすべて次のフィールドで指定されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> プロキシを使用して Management Console に接続</p> <p>プロキシ ホスト名 <input type="text" value="proxyhost.com"/></p> <p>プロキシ ホストポート <input type="text" value="9000"/></p> <p>プロキシ ユーザー名 <input type="text" value="username"/></p> <p>プロキシ パスワード <input type="password" value="●●●"/></p> <p>Linux の場合、server.conf ファイルの managementConsole セクションでプロキシパラメータを設定できます。</p> <pre>"useProxy": true, "proxyHostName": "proxyhost.com", "proxyPort": 9000, "proxyUserName": "username", "proxyPassword": "pwd"</pre>

* オートメーション デバイスへの直接接続は、Design Studio でのロボットの作成とデバッグ、および RDP 接続との使用のみにお勧めします。Kofax RPA ヘルプの「RDP 接続の使用」を参照してください。

Desktop Automation サービスのロギング

Kofax RPA はサービス パフォーマンスを向上するために、特定の Desktop Automation サービス イベントの使用情報を収集します。

- Desktop Automation サービスが Management Console に接続している場合、イベントはRoboServer Log Databaseに保存されます。Management Console の RoboServer ログデータベースに保存されます。イベントを表示するには、[ログ ビュー] タブで [DAS] を選択します。

注 Management Console の接続パラメータが Desktop Automation サービスの設定ウィンドウで指定されている場合、[シングル ユーザー] モードが選択されていても、イベントは常に Management Console にログ記録されます。つまり、自動化デスクトップへの接続は Management Console がなくても直接確立されます。

- もし Desktop Automation サービスが Management Console に接続できない場合 (Management Console が設定されていないため)、次の場所にある **Desktop Automation Service Usage.csv** のログ ファイルにイベントが書き込まれます。{path}\AppData\Local\Kofax RPA\<バージョン番号>\Logs\
ファイルの場所は、log4net.xml ファイルで設定できます。

各イベントの情報には次が含まれています。

- イベントが発生した時間 (UTC)。

- イベントの種類: 開始、停止、接続、切断、中断、スクリーン ロック。
- Desktop Automation サービスの識別。host:port フォームの ID、サービスを実行しているユーザーアカウント、サービスに定義されたラベルを含みます。
- ロボットの名前と実行 ID (接続と切断の場合のみ)。
- 重要度の表示 (常に「情報」)。
- メッセージ (常に空)。

Desktop Automation でのプロキシ サーバーの設定

すべての Desktop Automation サービス ロボットは Kofax RPA グローバル プロキシ設定を使用できません。Desktop Automation サービスは、Design Studio および Management Console と同じプロキシ設定を使用します。プロキシ サーバーの設定を構成するには、2 つの方法があります。

重要 Desktop Automation サービスの組み込みブラウザのローカル プロキシ設定は、Kofax RPA グローバル プロキシ設定よりも優先順位が高いことに注意してください。タスクでローカル プロキシ設定を使用する必要がない限り、ロボットが Kofax RPA グローバル プロキシ設定を使用していることを確認してください。Desktop Automation の詳細については、Kofax RPA のオンライン ヘルプを参照してください。

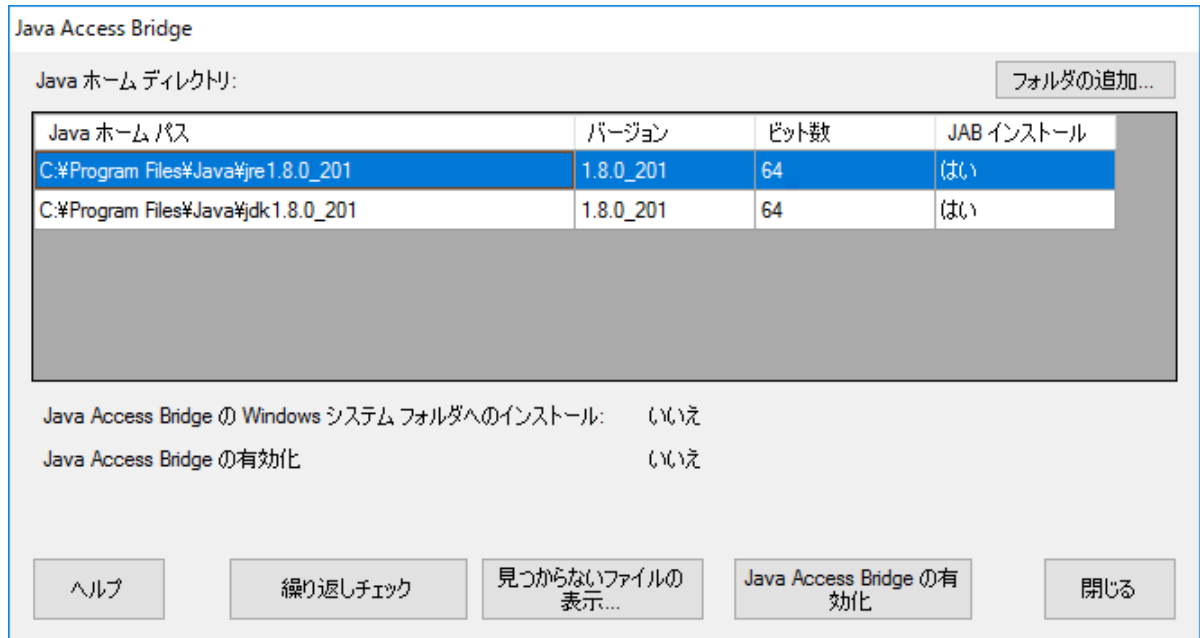
1. Desktop Automation サービスで実行しているすべてのロボットに対して、[Design Studio 設定] ダイアログ ボックスの [プロキシ サーバー] タブで、次のプロキシ サーバーの詳細を入力します。
 - ホスト
 - ポート番号
 - ユーザー名
 - パスワード
 - 除外ホスト
2. 展開されたすべてのロボットに対して、[Management Console] > [クラスタ設定] > [プロキシ サーバー] タブで、[プロキシ サーバーを追加] を選択し、次のプロキシ サーバーの詳細を入力します。
 - ホスト名
 - ポート番号
 - ユーザー名
 - パスワード
 - 除外ホスト名

Java Access Bridge の確認

Java Access Bridge は、Java アプリケーションを自動化する際に不可欠なコンポーネントです。Java のバージョンによっては、必要なファイルの一部がシステム フォルダ内がないことがあるため、Java Access Bridge は Desktop Automation サービスがインストールされているコンピュータで無効になっている場合があります。Java Access Bridge のインストール状態を確認するには、以下の手順を実行します。

1. 通知領域で Desktop Automation アイコンを右クリックし、[設定] を選択します。
2. [システム] タブをクリックし、[Java Access Bridge ファイルの確認] をクリックします。
[Java Access Bridge] ダイアログ ボックスが開き、インストールされている Java のバージョンと、各バージョンの Java Access Bridge のインストール ステータスが表示されます。[JAB イン

ストール] 列、[Java Access Bridge の Windows システム フォルダへのインストール]、[Java Access Bridge の有効化] に [はい] と表示されている場合、Java Access Bridge はコンピュータ上に適切にインストールされ、有効にされています。



- [Java ホーム ディレクトリ] の下に Java の実装が表示されない場合、[フォルダの追加] をクリックし、Java ファイルがインストールされているホーム フォルダを指定します。
- [JAB インストール] 列に [いいえ] が表示されるなど、見つからないファイルがある場合は、[見つからないファイルの表示] をクリックします。
[Java Access Bridge の見つからないファイル] ダイアログ ボックスに指定したフォルダにコピーする必要のあるファイルが表示されます。[見つからないファイルのインストール] をクリックして、Kofax RPA から提供されている最新バージョンの Java Access Bridge ファイルを Desktop Automation サービスのインストール フォルダにインストールします。
- [Java Access Bridge の有効化] に [いいえ] と表示されている場合は、[Java Access Bridge の有効化] をクリックします。

デフォルトの OCR 言語の変更

Kofax RPA では、Tesseract OCR エンジンを使用して、テキストをイメージからキャプチャします。デフォルトで、Kofax RPA には OCR の言語として英語がインストールされます。ロボットが画像からテキスト抽出ステップでテキスト認識を実行するとき、Desktop Automation サービスでは [Desktop Automation サービス] ウィンドウの [OCR] タブで選択した言語が使用されます。OCR のデフォルトの言語を変更するには、次のステップを実行します。

- 必要な言語の .traineddata ファイルを <https://github.com/tesseract-ocr/tessdata> からダウンロードします。たとえば、フランス語のファイルは fra.traineddata です。
- ダウンロード済みのトレーニングしたデータ ファイルを ProgramData フォルダの Kofax RPA \[バージョン]\lib\tessdata にコピーします。例：

```
C:\ProgramData\Kofax RPA\11.0.0_110\lib\tessdata
```


3. 通知領域で Desktop Automation アイコンを右クリックし、[設定] を選択します。
4. [OCR] タブをクリックし、[デフォルトの OCR 言語] リストで言語を選択します。[保存して再起動] をクリックします。

TTF フォントまたは UI スクリーンショットのいずれかを使用して、Tesseract が文字セットを認識できるようにトレーニングすることができます。詳細はヘルプ中の「Tesseract のトレーニング」を参照してください。

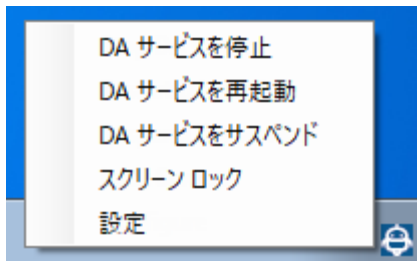
仮想入力ドライバーをアクティブにする

仮想入力ドライバーは、ハードウェア キーボードをシミュレートできる Windows デバイス ドライバーです。ドライバーのオペレーティング システムでサポートされているものについては、『Kofax RPA Technical Specification』(Kofax RPA 技術仕様書) を参照してください。ドライバーのインストールについては、『Kofax RPA Installation Guide』(Kofax RPA インストール ガイド) を参照してください。

ドライバーを使用するには、自動化されたデバイスで環境変数「`KAPOW_KEYBOARD_INPUT_METHOD`」を「`VIRTUAL_KEYBOARD`」に設定します。仮想入力ドライバーの使用をキャンセルするには、環境変数を削除します。

リモート デスクトップの管理

Desktop Automation サービスのショートカット メニューを使用して以下のアクションを実行できます。



Desktop Automation サービスの管理

以下のコマンドは、リモートのコンピュータ上で実行される Desktop Automation サービスを管理するのに役立ちます。

- [DA サービスを停止]: サービスを停止します。これによりリモート デバイスは使用できなくなります。
- [DA サービスを再起動]: サービスを停止してから、起動します。ロボットまたは Design Studio ではデバイスとの接続が失われるため、復元するにはリロードする必要があります。
- [DA サービスをサスペンド]: デバイスをサスペンドします。サービスをサスペンドすると、Management Console ではサスペンド状態と表示されます。サービス操作を復元するには、ユーザーまたは管理者はデバイスで Desktop Automation サービスを手動で起動する必要があります。
- [スクリーン ロック]: リモート デバイスのスクリーンをロックします。
- 設定: Desktop Automation サービスの設定ダイアログ ボックスを開きます。